

平成28年度 岡山市書写教育研究会 授業公開・協議会要項

本校の研究主題

互いに表現し合い，自分の考えをもつ児童の育成
～仲間と共に生き生きと学ぶ書写学習～

1 期 日 平成28年6月28日（火）

2 日程と内容

（1） 日 程

13:30

13:55

14:40 15:00

16:50

受 付	公 開 授 業 (6年1組教室)	移動	開会	研究協議・指導講評 (図書館)	閉会
-----	---------------------	----	----	--------------------	----

（2） 公開授業

单元名 「3つの部分の組み立て方」

本時題材 「湖」

6年1組 指導者

久本 忍

3 研究協議 （15:00～16:50）

（1）開会あいさつ

岡山県小学校教育研究会岡山支会書写部会長

岡山市立幸島小学校 校長

石原 英司 先生

（2）講師紹介

岡山市立操明小学校 教諭

宮本 毛登明 先生

（3）本校の取組

研究主任

北村 由美子

書写主任

桑谷 佳宏

（4）授業者反省

授業者

久本 忍

（5）研究協議

（6）指導助言（岡山市立操明小学校 教諭 宮本 毛登明 先生）

（7）閉会あいさつ

本校校長

國府島 知子

本校の研究の取組

1 研究主題

互いに表現し合い、自分の考えをもつ子どもの育成

2 研究主題設定の理由

(1) 今日の課題から

21世紀は「知識基盤社会」の時代であると言われている。このような社会では異文化・異文明との共存や国際協力の必要性を増大させている。その中で、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことがますます重要になっている。

また、PISA 調査などの各種の調査から、日本の児童が抱える課題として

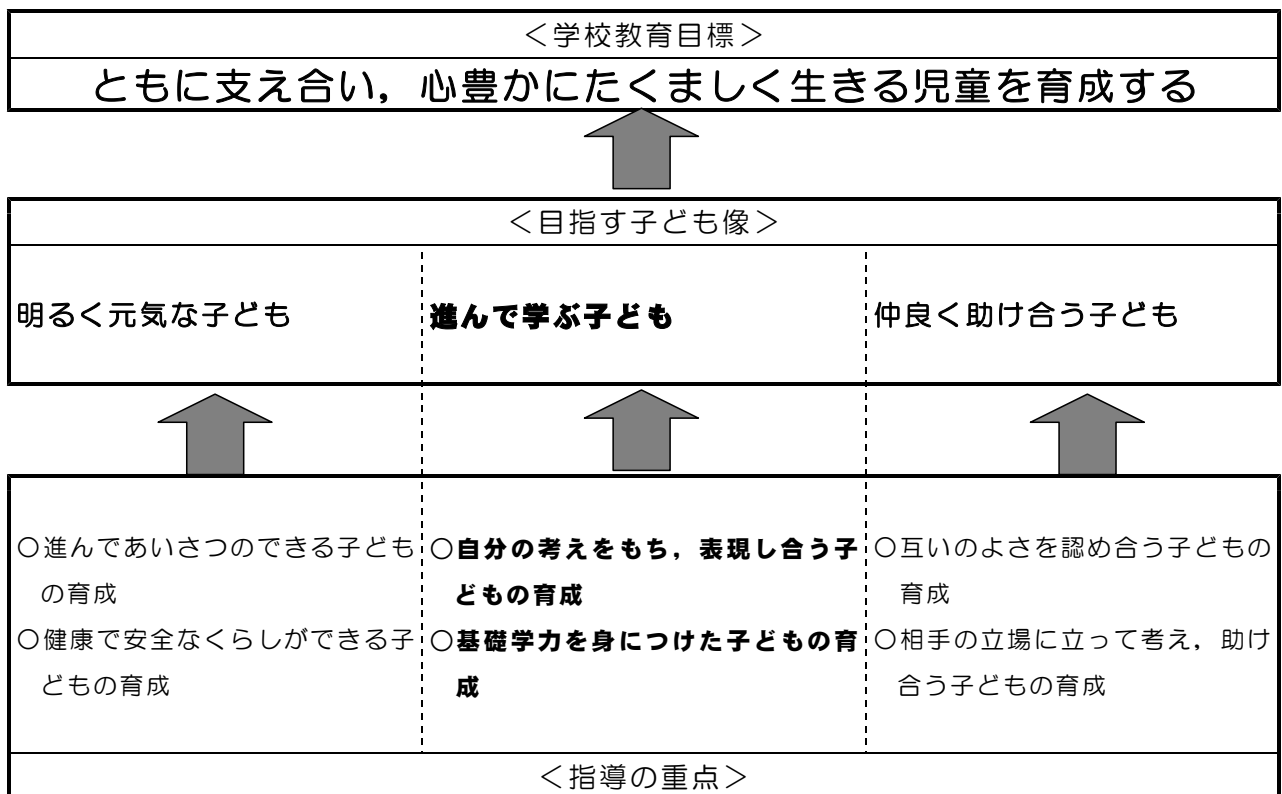
- ①思考力・判断力・表現力を問う問題、知識・技能を活用する問題に対する課題
- ②家庭での学習時間などの学習意欲、学習習慣・生活習慣に対する課題
- ③自分への自信の欠如や自らの将来への不安、体力の低下に対する課題

等が見られる。

学校教育では知・徳・体のバランスとともに、基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等及び学習意欲を重視し、これらを調和的にはぐくむことが求められている。

(2) 本校の教育目標から

本校では本年度、学校教育目標、めざす子ども像、さらにその指導を焦点化するための指導の重点を掲げている。



学校目標に掲げた子ども像に迫るためには、各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動の実践はもとより、日々の生活指導、人権教育、教育相談、安全教育また地域や家庭との連携を通して、自然や文化とのふれあい、地域の人々や友だちとのかかわり、自然現象、社会体験等の充実を図る必要がある。また、そうした活動の中で、子ども自らが課題をつかみ、その課題を解決していく中で、自分で調べる、考える、体を動かす、用具を操作する、友だちと考えや情報を交換するなど、自分の思いや考えを豊かに表現していくことが大切である。そして、そのような活動の中で、自分を理解してもらい、友だちを理解していくことで自己肯定感や他者に対する思いやりや相互理解が深まり、学校教育目標に掲げたような子どもが育つと考えられる。

（３）地域や子どもの実態から

本校は岡山市の西部に位置し、本年度、創立２３周年を迎えるまだ新しい学校である。岡山市街地のベッドタウンとして住宅化が進み児童数も当初の予定をかなり超えて８５０人程度の大規模校になっている。

地域の人々は協力的で子どもたちの登下校の安全を見守ってくださる方々や、御南学校の昔の様子を快く教えてくれるような方々も多い。また、保護者も子育てに協力的でＰＴＡ活動や少年団活動など熱心に取り組んでいる。

子どもたちはこうした地域の人々からも多くのことを学び、「よりよい御南小学校にしていきたい」「地域の一員としてよりよい生活を築きたい」という思いをもっている。しかし、くらしや学習場面では、その気持ちが長く続かなかったり、自分の考えや思いが友だちに伝えられなかったりすることも多く、これからも教育課程全般を通してお互いの思いを表現し合い、よりよく解決する活動を経験していくことが必要である。

以上のような理由から、本校の教育目標の実現をめざし、研究主題を

「互いに表現し合い、自分の考えをもつ子どもの育成」

と設定した。

3 研究仮説とめざす子ども像

(1) 研究仮説

教師が、教師主導型の授業をやめて子供の発言をつなげるような授業を展開すれば、子どもたちは進んで話したり聞いたりしようとするようになる。そのような学習を積み重ねていけば、研究主題のような「互いに表現し合う」子どもが育つ。

互いに表現し合う学習を積み重ねていけば、研究主題のような「自分の考えをもつ」子どもが育つ。

× $T \rightarrow C \rightarrow T \rightarrow C \rightarrow T \rightarrow C \rightarrow$

○ $T \rightarrow C \rightarrow C \rightarrow C \rightarrow C \rightarrow C \rightarrow C \rightarrow T \rightarrow C \rightarrow C \rightarrow C \rightarrow \dots$

(2) めざす子ども像

「分かっていること」や「正解」だけでなく、「分からないこと」「困っていること」「正しいかどうか自信のないこと」も出し合う中で、問題解決をしたり、その場での共通理解を図ったりしながら、自分の考えを広げたり、深めたり再構築したりしようとする子ども。

4 書写の授業において

岡山市小学校教育研究会書写部会の研究指定を受け、昨年度から

「仲間と共に生き生きと学ぶ書写学習」

という書写の研究主題を設定し、「用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めて、正しく整った字を書くことができること」をねらって、書写の研究を進めている。また、「互いの字の良いところを伝え合うことを通して、自分の字や友達の字の良さに気づくことのできる児童」を目指して、授業改善に取り組んでいる。そのなかで、書写の研究主題に迫るために、以下のような授業づくりの工夫を行うこととした。

(1) 問題解決学習・・・主体的な学習を目指して

主体的に書写の学習に取り組めるようにするために、「つかむ・考える→解決する→確かめる」という学習過程に沿った問題解決学習を取り入れることにした。

1 単位時間における基本的学習過程

- 1 つかむ・考える・・・文字の基準を知り、課題をもつ段階
- 2 解決する・・・問題を解決する方法を考え、練習と自己批評を繰り返す段階
- 3 確かめる・・・課題が解決できたかどうか確かめる段階

(2) 「互いの字の良いところを伝え合うことを通して、自分の字や友達の字の良さに気づくことのできる児童」を目指して・・・仲間との共有化を図る工夫

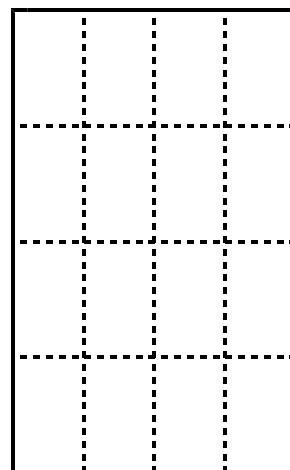
意欲を継続し、生き生きと学習を進めるためには、技能が向上し、それを子ども自身が実感する必要がある。そのためには学習前と学習後の文字を比較したり、友達同士で教え合ったりすることが有効であると思われる。しかし、互いの文字のよさや改善点を教え合うためには、正しく整った文字のポイントを理解し、共有する必要がある。そこで以下のようなことを意識して指導にあたっている。

【共有化する内容】

- ・学習の課題やめあて
- ・本題材における「正しく整った文字」

【共有するための支援の工夫】

- めあてをもつための活動の工夫
 - ・試し書きと手本との比較（16分割の線を基準に）
 - ・16分割の線を意識した範書DVDの活用
- 相互評価の工夫
 - ・ペア学習の活用（評価シール）
 - ・試し書きとまとめ書きとの比較



（３）「用紙全体との関係に注意し，文字の大きさや配列などを決めること」に向けた支援の工夫

身につけさせたい技能を設定し，子どもに何を学習していくのかを理解させるとともに技能を段階的に身につけていくようにする。その際，どの子どもにも分かりやすい学習になるようにきめ細やかな支援を工夫していくことを大切にしていく。

- 教材の工夫
 - ・手本（16分割の線，筆の向きの入ったもの）やワークシートの工夫
 - ・範書DVDの工夫
- 掲示物の工夫